

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	第11回大会（筑波大学，2012年7月14 - 15日）報告（その1）／	
	松井 敏也 .....	437
	会務報告 .....	439
	『日本の地衣フロラ解明プロジェクト』から／ 原田 浩 .....	439

## 第11回大会（筑波大学，2012年7月14-15日）報告（その1）

*Report of the JSL 11th Annual Meeting at Tsukuba, 14 - 15 July 2012, part 1/ by Matsui T.*

>>>>> 松井 敏也（大会実行委員長，筑波大学）

日本地衣学会第11回大会を筑波大学にて7月14日、15日に開催いたしました。会員の皆様の温かいご支援をいただき、盛況裡に終えることができました。大会の様子を報告いたします。

\* \* \*

### 大会概要

会場：筑波大学 春日キャンパス 情報メディアユニオン・メディアホール

会期：2012年7月14日(土)・15日(日)

14：15-16：45

シンポジウム「微生物と石造文化財」

S1 アンコール遺跡で見られる石材劣化と付着微生物／ 片山 葉子（東京農工大学院・農学研究院）

S2 地衣類は岩石を保護するのか風化させるのかー石造文化財に生息する地衣類はどうすればよいのかー／ 宋 苑瑞（東京大学・空間情報科学研究センター）

S3 生物が着生した石造文化財の保存技術／ 松井 敏也（筑波大学）

### プログラム

第1日目 7月14日(土)

10：00-11：00 役員会  
11：00-12：30 評議員会  
12：30-13：15 昼休み  
13：15-14：00 総会  
14：00-14：15 休憩

16：45-17：15 一般講演 A

18：30-20：30 懇親会

第2日目 7月15日(日)

9：30-12：00 一般講演 B

12：00-13：00 昼休み

13：00-15：50 一般講演 C

15 : 50- 閉会式

大会参加者 40 名

懇親会参加者 35 名

## 7月14日

朝は 9 時半頃から役員の方が会場入りをされ、会場の準備と並行して 10 時より役員会が開催された。総会では、2011 年度の大会や観察会、分類ワークショップ、学会誌『Lichenology』の刊行などの事業報告や、学会運営の 2011 年度の決算報告および 2012 年度の予算案の承認などが行われた。特筆すべきこととしては、実情と一致する学会員数を把握すべく行われた大幅な改革についての報告があった。これにより、学会運営の円滑化が期待される。また、『Lichenology』のバックナンバーの販売価格が再確認された。基本的に、学会員では 1 冊あたり 2000 円、非会員では 4000 円となるが、一部のページ数の多い号では 1000 円増しとなる。

14 時 15 分からのシンポジウムは「微生物と石造文化財」をテーマに開催した。シンポジウムは一般公開され、学会員以外の参加者が 5 名あった。今大会事務局は筑波大学世界遺産専攻が担っており、そのことも関係し、文化財である世界遺産の保護にとって微生物がどのように関わっているのかをテーマに 3 名の専門家の先生から講演いただいた。片山葉子先生には微生物の専門家の立場から微生物の活動が思いのほか岩石の劣化に影響を及ぼすことが紹介され、その微生物の種類やメカニズムなどわかりやすくお話しいただいた。

また近年の研究成果から微生物同士の生態活動により生物汚染を生物でコントロールする可能性についても述べられるなど、大変興味深い内容であった。続いて、宋苑瑞先生によるご講演では、岩石学の立場から岩石の



図 1. シンポジウムご講演の宋先生。

風化劣化現象を概説いただいたのちに、地衣類は岩石を守るのかそれとも劣化させるのかといった内容を先行研究の紹介を交えながら解説いただいた。特に微生物がある岩石鉱物を選択的に侵食する様子は衝撃的であり、微生物の持つ緩やかながらも着実に進行する破壊を目の当たりにすることができた。地衣類が基物に対してどのように関わっているのかを基物の研究者からの視点で知ることができた。最後は手前みそながら大会事務局から松井による文化財石造物の保護技術に関する紹介があった。文化財は人が関与することから自然現象だけを調査説明しても保護はできないことや、文化財の価値に関する話を皮切りに、保護にはそれにかかわる人々の活動が重要であるとの認識が示された。そのうえで、石造物の修復や強化の技術的紹介とクリーニング法について事例を基に解説があった。シンポジウムでは微生物学、岩石学、文化財学と三者三様な切り口で石造文化財と微生物のかかわりに関する講演があり、学会員および一般参加者にとって普段何気なく目にする文化財を違った視点で見る機会になったとすれば幸いである。

休憩後の一般講演では、地衣類の分類学に関する発表が2件行われた。まず、名誉会員の吉村氏が、日本のヤグラゴケ類の分類学的再整理について写真を交えながら講演された。ヤグラゴケ類は階段状（すなわち、櫓状）の子柄を形成する比較的メジャーな地上生の樹枝状地衣であるが、吉村氏の講演では、ヤグラゴケ類の中でも盃や櫓、子器柄の表面の形状などに多様性があることが改めて示された。その次には、千葉県立中央博物館市民研究員の吉川氏が、千葉県清澄山の東大演習林に保管されていた地衣類標本の検討を行った際の興味深い発見について発表された。

清澄山は暖温帯の千葉県南部に位置する低山であるが、かつてはこの山にハナゴケやヨコワサルオガセなどの本来は冷温帯から亜高山帯に分布する地衣類が生息していたのである。清澄山は地衣類以外にも寒冷地の維管束植物が遺存的に分布しているそうであり、非常に興味深い土地である。しかし、これらの地衣類は現在は生息



図2. 懇親会で乾杯の音頭をとられる吉村名誉会員。

を確認されていないとのことであり、環境の変化に危機を感じざるを得なかった。

懇親会は隣駅に移動してイタリア料理店で開催した。シンポジウムにてご講演いただいた先生方も招待し、ワイン片手にピザ、パスタなどで会員の親睦を深めた。  
(つづく)

## 会務報告

### Reports of the JSL Activities

#### 『日本の地衣フロラ解明プロジェクト』から

>>> 原田 浩（日本の地衣フロラ解明プロジェクト委員長）

会誌 *Lichenology* の表紙を開けて、表紙裏の下のほうにある本会の委員会の紹介の中に、『日本の地衣フロラ解明プロジェクト』がある。総会に参加されない方のために、ここで、その紹介をしたい。

本委員会が発足したのは、「日本産の地衣類および関

連菌類のチェックリスト」(原田他, 2004, *Lichenology*, 2(2)) を発表した後である。日本の地衣フロラ、多様性の解明は十分に進んでいないことが、分類以外の研究を進めるうえで障害になっている。そこで、解明を進めるために、一つにはチェックリストの編纂、図鑑の改定

をするとともに未知種を減らしていくような分類学的な研究があり、もう一つには、国内における地衣類の分布を解明していくことの二つを推進する必要があると考え、特に後者を進めるために考案したのが本委員会であった。その最初の活動は、2004年9月6日に、群馬県本白根山で、高山の地衣類を調査し、ニュースレター44号にその活動を紹介した。しかし、その後は、同様の調査を実施するには至っていない。

一方、前者のチェックリストの編纂、図鑑改訂と、未知種を減らしていくような分類学的研究については、最初は委員会としての活動範疇では無かったが、チェックリストの発表後には、図鑑改訂の一環として、分類ワークショップを以下のように開催した。

第1回：ムカデゴケ科、高知

第2回：狭義ウメノキゴケ属 (*Parmotrema*) と近縁属、千葉

第3回：イワノリ科、高知

担当者は検索表などを準備し、会場には標本と顕微鏡を用意し、担当者による解説の後に、実際に観察・検索をしてみるというものであった。残念ながら、まだ成果としての図鑑は出ていないが、そのうちに出てくるもの

と期待していただきたい。分類ワークショップを毎年開催したいと昨年に表明したのだが、諸事情のため実現できなくなってしまった。条件が許せば再開したい。

分類ワークショップは、フロラ解明プロジェクトの活動に位置付けられることとなった。更に、チェックリストの改定、図鑑の改定も、プロジェクトの一部に位置付けることとなった。

『日本の地衣フロラ解明プロジェクト』の守備範囲はとて広範にわたり、これを実行するには膨大な労力が必要となる。戦力が限られているため、プロ・アマを問わず分類学者の力を更に結集する必要があると感じている。

これとは別に、「地衣分類集会」という会合を、毎年大会前日に開いている。ここでは、地衣分類学の話題や、図鑑改訂作業をどう進めていくか(『日本の地衣フロラ解明プロジェクト』の課題と同じ)等について意見を交換している。今年も大会前夜に、つくば市内でこの会合を持った。参加者が少なかったため、十分な議論を尽くせなかったが、分類学者の使命を再確認することができた。

---

## ●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 102号 378ページに。

### ●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 102, p. 378 of this publication.

- *Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 118, pp. 437-440; eds. Harada H. & Kinoshita K., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 20 Oct. 2012.

---

発日本地衣学会ニュースレター 118号

行日：2012年 10月 20日

編集：原田 浩・木下 薫

発行者・発行所：日本地衣学会

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3-35

関西大学 化学生命工学部 生命・生物工学科

微生物工学研究室

---

---

©2012 日本地衣学会 (© 2012 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。